

学生の外国語能力向上に関する取組等

外国語教育の方針と学生の外国語能力向上のための取組

水産学部では、2年次以降も継続して英語教育を行うため、水産科学英語を必修科目としている。また、水産科学研究院に設置した国際教育室（教員3名（内2名外国人教員）配置）が主体となり、水産科学院および水産学部学生への実践的英語教育として、グローバル人材育成のための講義・特別プログラム群（水産学部対象9プログラム、水産科学院対象11プログラム（重複プログラムあり））を開講している。また、水産科学院学生を対象に、水産科学に関する英語科目として水産科学汎論 I および II を開講している。今後このような取り組みをより一層充実させることで、外国語能力のさらなる向上をはかる。

① 外国語能力の到達目標

上記の英語教育科目において単位認定のための英語能力評価が行われており、合格基準が到達目標となっている。また、大学院入試ではTOEICスコアをもとにした英語能力評価が行われており、一定水準以上の学生が進学している。

② 外国語能力を向上させるために実施する取組

水産科学院および水産学部学生を対象としたグローバル人材育成のための講義・特別プログラム群（水産学部対象9プログラム、水産科学院対象11プログラム（重複プログラムあり））および水産科学汎論 I、II の充実をはかる。

③ 外国語能力を把握するための取組

- ・修士課程及び博士後期課程入試（社会人入試を除く）の提出書類として、受験者全員に過去2年以内に受験した英語外部試験のスコアシートを提出させる。

④ 取組の実施予定時期

現行の英語教育の充実および新規科目の設置、到達目標や評価基準の変更が必要と認められた時に速やかに実施対応する予定である。

学生の国際性を涵養できた実例

実例 1

ハルトプライズ (Hult Prize) は、ハルトプライズ財団が主催する世界最大の学生起業アイデアコンペで、2009年より毎年開催されている。国連が示す SDGs (Sustainable Development Goals) に関連したテーマが毎年設けられ、世界中の学生が起業アイデアを競う。2019年は「若者の雇用：10年で1万人の雇用を生むベンチャーの基礎を築く」をテーマに、勝利チームには起業資金として100万ドル(約1億1千万円)が贈られた。

2019年は世界29都市で地域予選が開催され、4月27日に開催された東京予選には京都大学、デ・ラ・サール大学(フィリピン)、ロンドン・クイーン・マリー大学(イギリス)などから約45チームが参加した。本東京予選において、北海道大学の学生4人からなるチーム「アクアモウ (AQUAMOU)」が、日本の大学チームとして初めて優勝した。本チームのリーダーを務めたのは、水産科学院修士2年の学生Aで、彼は2018年度の海外LS事業「HU-NUS Summer Course 2018」に参加した学生であり、シンガポール国立大学の教員及び学生との交流において、国際社会で必要とされるリーダーシップや国際的な企業感覚を学んだ。今回の学生起業アイデアコンペでは、水産科学院修士2年の学生Bを含む3人と共にチーム「アクアモウ」を結成し、入念な準備と研ぎ澄まされたプランによって並み居る強豪校を破り見事優勝を果たし、全世界の地域代表40チームの一つに選ばれるという快挙を成し遂げた。

実例 2

水産学部4年の学生Cは、2017年度の海外LS事業「HU-NUS Summer Course 2017」に参加し、シンガポール国立大学の教員及び学生との交流において実践的な英語を学習し、異文化理解力を深めた。本経験により語学力が向上し、自信を深めたCは、2018年度にベトナムのカントー大学に2ヶ月留学し、2019年度も9月半ばから10月末まで同大学に留学した。

実例 3

2019年度の海外LS事業「HU-NUS Summer Course 2019」に参加した水産科学院博士後期課程1年の学生Dと水産科学院修士課程1年の学生Eは、シンガポール国立大学の教員及び学生との交流において、英語による複数の授業を通じて海洋科学の先端研究の知見を得た。本経験に触発された2名の学生は、2019年9月に開催された国際学会に参加して自らの研究内容を発表すると共に、様々な国から参加した研究者や学生と意見交換を行った。彼らは、今後もこのようなアウトプットを継続し、国際的に活躍する研究者に成長する夢を持っている。